

## 第1回大阪府自殺対策審議会「啓発・予防」部会 報告

◇日 時:平成25年7月24日(水) 午後2時～4時

◇場 所:ドーンセンター 4階 中会議室3

◇出席者:渡辺部会長、石藏委員、佐藤委員、高橋委員、谷掛委員、中尾委員、深尾委員、松浦委員、  
松本委員、八尾委員、吉田史委員、吉田文生委員

◇事務局:清水、西田、川原、多良、田中

### 報告(事務局)

#### ○大阪府の自殺対策の取組みについて

・事務局から大阪府の平成25年度の自殺対策の取組みについての報告があった。

### 審 義

#### (1)大阪府の自殺対策における啓発のあり方について～「自殺者ゼロ」のメッセージについて

##### 主 旨

自殺対策基本指針で府の目標を「自殺者数を1500人以下」と掲げているが、平成25年2月府議会において、長期的な目標としては「自殺者数ゼロ」を目指し、府民に対してもそれをメッセージとして発信すべきではないかという提案があった。

これを受けて第1回審議会で啓発のあり方について検討いただき、「自死遺族の方々の意見を参考にした上で、再度審議会において検討する」という結論となった。

大阪府内にある「分かち合いの会」に参加されている自死遺族の方々を対象に、事務局から聞き取り・アンケート配布により集約した意見を参考に、審議いただきたい。

#### 審議における主な意見

- 「自殺」を数字で表すことが当事者の気持ちになっていない。数字ではなく、「生きやすい社会」や「自殺を語れる社会」「追い詰められない社会づくり」など「環境をどうするか」ということに目を向ける方が、いろいろな方が受け入れやすいのではないか。
- 自殺対策基本法は自殺対策を自治体の責務と規定しているので、自殺対策に取り組む我々や行政がゼロを目指すという考え方は大切。ただし府民向けには、社会に責任がある「自殺」を個人の問題と捉えるおそれがあるため、自死遺族の方などに配慮し、環境に注目した「我々が温かく見守っている」というようなメッセージがよいのではないか。

##### 部会の意見

行政や自殺予防に関わる人には、「ゼロを目指して取り組む」という考え方で施策を進めていく必要があるが、府民向けのメッセージとしては例えば「自殺は社会の問題」として捉えてもらえるような、環境に着目したメッセージを伝える。

## (2)「啓発・予防活動」の取組みについて

### 主旨

自殺対策連絡協議会部会として検討していただいた意見について、事業に反映したものもあるが、反映できていないものもある。

そういった課題を踏まえながら、各委員の所属機関・団体においてゲートキーパーとしてどのような取組みが可能か、またそのためには、どのような支援や連携体制が必要かという観点から、今後の「啓発・予防活動」について審議いただきたい。

### 審議における主な意見

- 「学校に対するアプローチ」について、学校医として精神科医が入ることで、学校のメンタルヘルスの課題にも対応できるのではないか。
- 自殺対策のキーワードは、ゲートキーパー、ケースワーク、ネットワーク、コーディネートの4つ。
- コーディネートの担い手として、地域関係機関の連携会議の中心であり、ゲートキーパーを支援する役割が期待される保健所が最適ではないか。
- 地域包括支援センターや相談支援センターで、障がい者の相談を始め、自殺対策を含めた対応が出来るといいのでは。そのために、どのように働きかけていくのかの議論が必要。
- 基金終了後の自殺対策予算が少なくなった時にも持続可能な取組みの方策を提言する必要がある。

### 部会の意見

- ・自殺対策のキーワードは、ゲートキーパー、ケースワーク、ネットワーク、コーディネートの4つ。  
この4つについて、対象や課題を整理し、特に一番のキーワードであるコーディネートを担う機関について検討が必要。
- ・事業への取組みが「一部反映」などの課題については、継続して取組む。
- ・基金終了後も、持続可能な取組みの方策を提言する必要がある。

## (3)今後の大阪府自殺対策審議会(部会)の運営について

### 主旨

審議会と部会の関係を整理し、より効率的な体制で臨みたいと考えている。具体的には、審議会の議論の中で、具体的な課題やテーマが挙げた時に、部会を設置し、集中的に議論する形にしたい。この「啓発・予防部会」については、「啓発・予防」に関して議論いただき、府の施策等に反映できたものも多くある一方で、様々な事情から実施できなかったものもあるが、概ね目的は達成できたと考えため、本日の審議をもって、一旦閉会としたいが、いかがか。

### 部会の意見

運営方針を承認するということで、審議会で報告をする。